

# 山崎公園（愛称名：せせらぎ菖蒲園）

所在地：富士見市大字水子184

■公園の種類： 都市公園（近隣公園※）

■公園の規模： 面積 11,648㎡（約12ヘクタール）

※近隣公園とは、主として近隣に居住する者の利用に供することを目的とする公園で、1近隣居住区当たり1箇所を目途に、面積2haを標準として配置される都市公園の区分種類。

■山崎公園は、市制施行20周年を記念して整備された公園です。平成6年（1994）開設され、市内でも人気の高い公園となりました。

「せせらぎ菖蒲園」の愛称でも親しまれており、約180mのせせらぎが流れており、6月に見ごろを迎えるハナショウブの時期には市内外より毎年多くの方が訪れます。また、水と緑を基調とした園内は、春から秋にかけてさまざまな花が彩りを加え、世代を問わず楽しめる市民の憩いの場になっています。



↑公園の入口広場

←西側から公園中央を見て



←東側から公園の中央を見て

- 山崎公園の富士見江川沿いには、「河津桜(カワヅザクラ)」が植えられています。  
平成23年(2011)市民の記念樹として、応募者の中から選び植樹されました。  
※「河津桜」は、翌平成24年(2012)に、富士見市みどり野南の「第二運動公園」東側道路沿いに30本  
植えられています。



↑左側の緑の木が河津桜 公園の富士見江川沿いの道路(西側から東側を見て)

- 園内・外の風景(桜の季節)



↑富士見江川の油橋からの山崎公園



## ■園内の風景（花菖蒲の季節）



## ■富士見市ホームページで山崎公園の詳しい案内があります。

<http://www.city.fujimi.saitama.jp/40shisei/19chikatu/Location/2010-1130-1414-127.html>

ダウンロード出来る案内

### せせらぎ菖蒲園は

ふるさと創造事業・市民参加型環境教育の推進策として、環境教育の推進を図る。環境教育の推進を図る。環境教育の推進を図る。

●園内の名称  
●園内の種類  
●園内の住所  
●園内の面積

### 花菖蒲についての基礎知識

花菖蒲は、日本に自生する植物から、日本人独自の観賞で栽培されてきた観賞植物です。その栽培の歴史は古く、鎌倉時代中期から、戦国時代の中期、徳川幕府の時代、各都府で広く栽培されてきた。近年は海外からの輸入品種も増え、品種の多様化が進んでいます。花菖蒲は、日本に自生する植物から、日本人独自の観賞で栽培されてきた観賞植物です。

(1) 基本事項  
●科名： Iris科  
●属名： Iris属  
●学名： Iris sibirica L.  
●原産地： 中国、日本、朝鮮半島、ロシア、アメリカ合衆国、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、アフリカ、南極大陸

(2) 栽培適期  
●播種適期： 4月～5月  
●定植適期： 4月～5月  
●開花適期： 6月～7月  
●収穫適期： 7月～8月

(3) 病害虫  
●病害： 根腐病、葉斑病、花腐病、ウイルス病、細菌性萎凋病、真菌性萎凋病、ウイルス病、細菌性萎凋病、真菌性萎凋病

花菖蒲は、日本に自生する植物から、日本人独自の観賞で栽培されてきた観賞植物です。その栽培の歴史は古く、鎌倉時代中期から、戦国時代の中期、徳川幕府の時代、各都府で広く栽培されてきた。近年は海外からの輸入品種も増え、品種の多様化が進んでいます。花菖蒲は、日本に自生する植物から、日本人独自の観賞で栽培されてきた観賞植物です。

●園内の名称  
●園内の種類  
●園内の住所  
●園内の面積

## ■山崎公園の場所



## ■山崎公園と直接は関係ありませんが・・・

公園の付近に、「油橋」、「油坂」があります。

難波田公園の「古民家」の案内より

難波田城公園に移築された旧金子家住宅（市指定文化財、明治4年(1871)建築）の金子家は油屋という屋号で呼ばれる（江戸時代末期から、農業のかたわら油商を営んでいた）。



記載日：2014/08/23

この内容は、「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集 第二集」から抜粋し、記載しています。